

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778-3		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた緑豊かなこの地域で、理念に掲げているように家庭的な雰囲気の中で、利用者様が、「自由に、楽しく、笑顔で」生活され、一人でも多くの御家族や地域の方が、いつでも気軽に訪問して頂けるようなグループホーム作りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路に面しているものの自然に囲まれ、利用者は居ながら季節の移ろいを感じ生活できる環境である。母体医療法人は病院を中心に障害者施設を運営しており、系列施設間の連携協力体制が整っている。地域の七夕祭りやおくんち、文化祭などの行事に利用者と一緒に参加したり、法人内事業所合同の夏祭りは地域住民の楽しみであり、多くの参加があり交流が深まっている。また、地域の福祉関係事業所からなる「グリーンハートせちばる」の構成員として地域貢献に取り組んでいる。事業所は開設当初からの理念として地域に密着し、安心して生活できる事を掲げ、ケア理念に「自由に楽しく笑顔で」を謳っている。ドライブや散歩、外気浴など気軽に頻繁に外出し、外食やおやつ作り、自家菜園の植え付けや収穫を利用者と共に行うなど理念の具現化を追求している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務表に掲げると共に事業所内に掲示し、朝の申し送りの際には唱和を行い理念共有に努めている。	開設当初からの理念とケア理念があり、毎朝の唱和や勤務表に掲載している。又、ホーム便りや事業所内に掲示し、職員や家族などへ表明し周知を図っている。職員は利用者本位の寄り添ったケアを実践することでケア理念の「自由に楽しく笑顔で」の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地域行事の把握に努め、七夕祭りやおくんち、文化祭等に参加したり見学したりしている。	自治会の役員などから情報を得て、地域の行事や祭り等に職員と利用者が一緒に参加している。保育園児の訪問や巡回図書館が来たり、事業所の夏祭りは毎年、地域住民の参加が多い。更に「グリーンハート世知原」の活動に参加するなど年々地域交流が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会の方や民生委員の方等に運営推進として参加して頂いている。その中で認知症についての症状、支援等について説明を行う様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で利用者の実態やサービスの取り組み状況の報告、意見交換を行い、サービス向上に活かすようにしている。	2ヶ月に1回、家族や規程のメンバーの参加で開催している。事業所の現状、活動報告、行事の案内等や参加者からの要望、助言、質問等について意見交換を行っている。災害訓練時の安全面についての意見で、避難誘導時の再確認を検討するなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成26年度は市町村担当者、平成27年度は地域包括支援センターの方が2ヶ月に1回の運営推進会議に参加されており意見交換が出来ている。また、生活福祉課担当者とも常に連絡をとりながら協力関係を築く様に取り組んでいる。	本庁や支所に向いたり、電話等で担当者に実情を伝えて連携を図っている。福祉課職員の定期的な訪問もあり、利用者の受入れの相談があるなど協力関係を築いている。また、市主催の研修会には、職員が交代で参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より身体拘束しないケアを心がけている。ミーティングでも議題に取り上げ理解を深めている。	管理者は職員へ身体拘束についての内部研修や日々の支援の中で指導し、身体拘束をしない支援の周知を図っている。職員は身体拘束を理解し、穏やかな言葉かけや利用者が外へ出た時は付き添うなど身体拘束のないケアの実践に努めている。日中の玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な事だけでなく言葉でも虐待になりうることを理解し、言葉かけ等にもお互いに注意を払っている。また、ミーティングでも学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度や社会福祉協議会のあんしんセンターを利用されている方がおり、学ぶ機会を持つことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	遠隔地の御家族にも電話や文書で十分な説明を行い、不明な点等は相談していただくようにして、行き違いがないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者様や御家族にも必ず出席して頂き、意見交換することができている。また、面会時等に意見や要望を聞く機会があれば、申し送りやミーティングの際に伝える様にしている。	苦情相談窓口は明文化し、契約時に家族へ説明している。また、意見箱を設置し苦情処理の図式を掲示している。面会時に家族が話しやすい雰囲気作りや2ヶ月毎に発行する事業所便り、利用者の状況を知らせる個別の便りを家族へ送付するなど、意見や要望の抽出に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りの際に意見や提案を話し合う機会を設けており、出来る事から実施するようにしている。	職員は日々の業務時や1ヶ月毎のフロア会議や2ヶ月毎の合同会議で、管理者や代表へ意見要望を伝えている。管理者は、勤務希望や研修希望を取り入れたり、個人的相談を聞くなど働きやすい職場作りに努めている。手すりの設置や浴室の改造など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実績表により把握してもらっている。ミーティング時には意見や要望を伝える機会もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自薦、他薦で研修参加を勧めており、参加後はミーティングにて、発表や伝達講習の場を設けて、参加できなかった職員も学ぶことができる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修を中心に参加する機会がある。勉強会や交流、情報交換を行い、質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には面談して話の傾聴を行い、入所後に安心して生活して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族へも十分な説明を行い、不安や要望等傾聴するようにしている。入所後、いつでも相談できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に他のサービスが適切であると判断した場合には、他のサービスについても説明を行い、選択できる様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にして、お互いに声をかけ合いながら一緒に行動し支援を行う様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に写真入りの近況報告やあじさい便りを送付して生活状況を伝える様にしている。また、面会時には意見交換が出来るような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪問して頂けるような雰囲気作り、関係作りに努めている。希望があれば一緒に外出することも出来る様にしている。	家族や住んでいた地域の知人や入院中に知り合った友人などの訪問がある。また、馴染みの美容院から2ヶ月毎に訪問がある。利用者の希望で法事やスーパーへ買い物に行ったり、入所していた施設へ訪問に行くなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席を工夫したり、声かけを行う等してトラブルや孤立することがないように、常に心がけながら支援行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも必要に応じて相談や支援を行うように努めており、来所や電話にて相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話のやりとりや表情を観察し、本人様の希望や意向の把握に努め、その人らしい生活が実現できるように常に話し合いを持ちながら対応するようにしている。	無口な人や難聴の利用者は、顔の表情、体の動き、しぐさなどから本人の思いを把握する努力を行っている。食事時や排泄支援時や入浴時など職員と1対1で向き合う場面で、本音が聞ける場合が多く、把握した内容は申し送りや記録に残し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や病院、施設等の情報をもとに、これまでの生活歴を把握した上で、趣味や特技を活かして生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや介護記録、毎月のミーティング等で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際には、本人様、御家族から希望や意向を聞き、担当者会議を開催し意見交換を行っている。計画の実施確認や評価を行い、その時の状態に合わせた計画を作成するように心掛けている。	担当者会議で利用者や担当職員が参加し、原案を作っている。家族の意見は面会時や電話で聞き取っており、利用者の状況を説明する等、意見が出やすいよう工夫している。実践状況を毎月まとめ、モニタリングは3ヶ月毎に行い、状態に変化があった時は見直している。ケアの記録様式を改善し、介護計画との連動が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、変化、気付きは個別記録や申し送りにて共有している。毎日の実践をもとに評価を行い介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて話し合いを持ち、希望や意向に添えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	巡回図書やボランティア訪問があり、楽しみにして利用されている。地域の行事や花見等は希望や体調に合わせて参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人にかかりつけ医があり、定期受診はもとより、相談、往診が出来る様に支援している。必要時には紹介状を出してもらい、他科受診をすることもあり、連携が図れている。	かかりつけ医は利用者の意向に沿って決め、受診は家族が同行できない場合は職員が支援している。又、月2回の往診がある。受診結果は家族と報告し合い、記録し職員は情報共有している。夜間急変時には、看護師や協力の医療機関に連絡し適切な医療が受けられる体制があり、職員は対応を周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や異常を発見した際には報告、相談を行い、対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関に情報提供を行うと共に定期的に連絡をとり合い、利用者の方の状態把握に努め、相談や情報の共有が行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の面談の際に説明を行い、同意を得ている。状態変化があった場合には御家族や医療機関と連絡をとり合い対応するようにしている。	重度化や看取りに関しての指針を明文化し、契約時に方針を家族に説明し、同意を得ている。今年度の事例はないが、本人・家族の希望があれば家族、医師、看護師、関係者、職員が密に連携を取り、看取りに取り組む体制があり、職員も周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを事務所内に設置し、いつでも見る事が出来る様にしている。ミーティングの際には再確認を行う様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回消防署や病院、近隣施設と共に防災訓練を行っている。	年2回、夜間想定防火避難訓練を消防署立会いで実施し、毎日、電源等の元栓の確認を行っている。訓練には利用者も参加し、近隣の施設の協力体制がある。非常持ち出し品や備蓄も整備している。ただし、訓練時の職員の気づき、反省や消防署の総評等が記録されていない。また自然災害時の訓練が今年度は行われていない。	訓練時の気づきや総評は、次回の訓練に最も役立つものであり、記録の取り方の工夫を期待したい。また自然災害時の対応を、マニュアル等を活かしながら取り組まれることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室においてはポータブルトイレの設置場所や入室の際のノックや声かけ等プライバシーを損なう事のないよう心掛けている。	職員は排泄誘導時や入浴時など利用者の恥辱心や尊厳を損なわない支援を心掛けている。又、採用時に守秘義務の誓約書を提出している。個人情報関係の書類の保管場所は適切で、個人情報の取り扱いについては、契約時に家族へ説明し同意の署名を貰っている。ただし、写真掲載は口頭での同意に留まっている。	写真掲載の事業所便りは、事業所外に配布・掲示しているため、利用者の個人情報保護の観点から写真掲載については、文書等にて家族の同意を確認することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の自己決定を大切にし、強制することがないように声かけや促しを行っている。自己決定が難しい方には、自己決定がしやすい様にわかりやすく説明しながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候や体調、その日の気分に合わせて支援を行う様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出の際には一緒に服を選んだり、髪型や洋服が似合っている時には褒めたりしておしゃれが楽しめる様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で育てた野菜を収穫し献立に取り入れたり、食材の皮むきをしたりしている。また、テーブル拭き、トレー拭き等も常に会話しながら一緒に行う様にしている。	法人内の栄養士が利用者の好みを配慮し献立を立て、隣接の障害者就労継続支援事業所が配食している。外食や利用者とおやつを作ったり、菜園で収穫した野菜を調理するなど食事を楽しむ支援に努めている。又、利用者はテーブルを拭くなど出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は関係事業所の栄養士が作成しており、季節や行事に合わせたメニューになっている。食事や水分量は必ず記録に残し、日々の状態を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。一人一人の状態に合わせ、声かけ、促し、誘導、一部介助等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の確認しながら、声かけや誘導を行うようにしている。また、本人様より意思表示があった際にははすぐに対応するように心掛けている。	職員は排泄の自立支援を理解し、排泄チェック表や申し送りで利用者のその日の排泄リズムを共有、把握している。また、可能な限り布パンツを使用し、日中はトイレでの排泄を基本とするなど自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト等の乳製品を飲み物として取り入れている。歩行練習や軽体操への参加促しも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の状態に合わせて希望を聞きながら対応できている。個浴が基本であるが、仲の良い方同士で会話を楽しみながら一緒に入られる事もある。	入浴は週2回、午前中に準備をしておき、利用者の体調や気分などで入浴出来なかった場合は、翌日に他ユニットで対応している。又、入浴日以外でもシャワー浴をするなど利用者の希望に沿って支援している。車イスの利用者も湯船に浸かっている。柚子湯や入浴剤などを使用するなど入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室においては時間を問わずいつでも自由に休む事が出来る様にしている。また、リビングのソファや畳の間でも休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容説明はいつでも確認できるように個別にファイルしている。受診や処方についてはノートを作成して受診時に記録するようにしており、職員間で情報の共有が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際のテーブル拭き、トレー拭き、リネン交換等その日の状態に合わせて手伝って頂いている。また、新聞やテレビはいつでも視聴でき、レクリエーションも希望を聞きながら実施するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時は散歩や買い物に同行している。外食時にはワゴン車の送迎サービスを利用したり、ドライブを兼ねて花見に行ったりしている。隣接のパン工房には時々買い物に出かけられている。	季節の花見のドライブや地域の行事などへ外出している。車イスの利用者も一緒に外気浴や近場の散歩は、天候を考慮しながら毎日のように出かけ、気分転換を図っている。利用者と隣接のパン工房へ気軽に買い物へ行くなど日常的に外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には買い物同行をして支払い等の支援を行っている。中には買い物を職員に頼む方もおり、対応するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りをする方は殆んどいない状況にあるが、希望されればいつでも対応するように職員間で確認できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には共同制作の貼り絵や折り紙等の作品を掲示し、玄関やリビングには季節の花や植物を飾っている。季節感を出るだけ味わっていただけるように、散歩の際に摘んだ草花をテーブルに飾ることもある。	日当たりのよいリビングは、利用者が寛げるように畳敷きの小上がりやソファを配している。玄関に季節の花があり、壁は利用者の作品を飾り、季節感を感じるよう工夫している。掃除は毎朝、職員が利用者と一緒にいき、感染対策や空調管理も行き届き、臭気も無く、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいては椅子や、ソファ、畳の間等自由に利用できるようにしている。談話したり、新聞やテレビを視聴したり、個々にくつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ小物や写真等それぞれに配置し、居心地良く過ごすことが出来るようにしている。	馴染みの鏡台やタンス等を持ち込み、ぬいぐるみや写真を飾るなど、本人らしい個性ある居室となっている。夜間使用のポータブルトイレは家具調椅子であり置き場所を工夫している。掃除は毎朝、職員が行い、利用者もできる範囲で手伝い清潔を保っている。換気や空調は職員が適宜行い快適な居室となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心掛け、転倒事故につながらないように配慮している。また、絵や文字等で自室やトイレ等の場所がわかるように工夫し、手すりの利用でトイレまで行けるようしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい (2F)		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778-3		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた緑豊かなこの地域で、理念に掲げているように家庭的な雰囲気の中で、利用者様が、「自由に、楽しく、笑顔」で生活され、一人でも多くの御家族や地域の方が、いつでも気軽に訪問して頂けるようなグループホーム作りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内に掲示し、朝の申し送り時に声に出して確かめ、全員で共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家と離れているが行事の際には案内をして参加して頂いたり、地域の行事には出来るだけ参加するようにして交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し交流をすることで少しずつではあるが理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の現状、サービスの実践状況等毎回報告している。参加して頂いた委員の方やご家族に意見を伺い、支援やサービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心として地域包括支援センターや市役所担当者と連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解して拘束をしないように取り組んでいる。しかし、利用者の方のレベル低下が進んでおり、受診等の際に1名対応で危険が予測される場合等は安全ベルトを使用することもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて協議行っている。利用者の方の様子観察に努め、職員の行動、言動に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用される方がおられる為学ぶ機会があった。ミーティング等でも説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時十分に説明を行い納得して頂いている。不安や疑問点等はいつでも尋ねやすい環境になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口や手順を見やすい場所に掲示している。また、面会時には意見や要望を伺う様に努め、2ヶ月に1度は利用者近況報告を手紙で送付している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、ミーティング等で意見を聞き、出来る範囲で実施されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や休日希望等を聞き、働きやすい体制に努めているが、少しは不満も聞かれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内が届いた時には交代で参加するようにしており、個々の向上心に役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通して同業者との交流を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意見や要望等に耳を傾け、安心して生活して頂けるようコミュニケーションや声かけに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に耳を傾け、何かあればいつでも連絡をとることができるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や御家族の要望をよく聞いて必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の不安を取り除き「家庭的な雰囲気」を目指し、寄り添う介護に力を注いでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、御家族、職員が共に話し合い、一体となり取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方が面会に来られた時には継続して来ていただけるようお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係をは把握し、トラブルが起きる事がない様に見守り、コミュニケーションの援助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	柔軟な姿勢で対応し、御家族からの相談があった場合は出来るだけ要望に添えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が出来る方にはできるだけ本人様の声を聞くようにして思いや意向の把握に努めている。また、会話ができない方は様子観察しながら思いや意向を理解できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人、病院や施設等から情報を収集したり、本人様から聞いたりして、職員全員が共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況、精神状態等を観察し現状を把握し、申し送り、ミーティング等で話し合い、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の希望、家族その他関係者の意向を踏まえて意見を出し合い、計画作成に反映できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や変化等を詳細に記録に残している。情報は申し送り等で共有し計画見直し等に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や意向に出来るだけ応じられるよう、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の巡回図書や地域の保育園等の協力を得て楽しめる様支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の同意を得て定期受診を支援している。急変時には連絡を密にとりながら必要な医療が受けられる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態報告を行い、必要時には相談することにより連携して対応し受診等に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には必要書類を提出し、入院先のスタッフの方々と情報交換を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態報告を行い早い段階で御家族等と話し合い、説明を行う様にしている。職員全員が情報を共有し支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	話し合いは行っているが、急変時の対応の訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回関係機関の協力の下、防火避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つけないように言葉使いや態度に十分気を付け対応するように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	解りやすい声かけをする等利用者の方のレベルに合わせてその都度対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の声を聞いて希望に添える様対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身支度の声かけを行い、季節や気候に配慮しながら清潔な衣服着用の支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いて可能であれば代替え品を用意するようにしている。テーブルやトレー拭き等出来る方にはお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については毎日記録に残し、不足している時には状況に応じて代替え品を提供する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂いている。介助が必要な方には介助支援行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンの把握に努め、声かけ、誘導介助を行う様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表の水分量、食事摂取量を確認しながら水分摂取や運動への働きかけを行っている。排泄が数日ない場合は処方薬を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に応じて週2回の入浴をゆったりとして頂いている。発汗や排泄の汚染時にはシャワー浴にて清潔に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に応じて休息や昼寝が出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の際には日付、名前を声に出して確認しながら支援を行っている。薬の説明書はいつでも確認できるように事務所内の見やすいところに置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブルやトレイ拭き、洗濯物たたみ等出来る範囲でして頂いている。好みのおやつ等の買い物支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩、買い物、地域行事への参加等支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭能力に応じて自分の小遣いで日用品やおやつ等買える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば状況に応じていつでも連絡ができる様にしている。手紙を書く能力がある方には書いていただき投函の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、リビングには共同制作の貼り絵や折り紙等を展示している。室温や湿度、臭気等には特に気を付ける様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は利用者の方の希望も取り入れ、トラブルがない様に配慮して席替えを行っている。ソファや畳は自由に使用して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に使いなれた家具や小物、御家族の写真等を飾り居心地良く過ごせるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上には障害物を置かないように整理整頓に努めている。また場所がわかりやすい様に絵や文字で表示を行っている。		